

りんご黒星病の早期多発の原因と対策

環境部

1 背景とねらい

昭和63年度におけるりんご黒星病の多発に鑑み、その原因を解析するとともに、本病に対して防除効果の高いエルゴステロール合成阻害剤（以下E B I剤と略記）の使用法について検討した。

2 技術内容

1) 多発原因と発生特徴

(1)りん片越冬病斑に由来する感染が、気象条件（特に降雨）と相まって、りんごの開花以前にみられた。

(2)開花前の降雨による感染が主体の園地においては、重点防除時期（開花期及び落花直後）の予防剤散布だけの防除は不適當である。

(3)高標高等にある園地では、展葉期からすでに感染が始まっており、防除が後手にまわっている。

2) 防除対策

E B I剤を主体とした早期防除が必要であり、特に降雨前の薬剤散布を徹底する。

3 指導上の留意事項

1) 従来使用されている予防剤の黒星病に対する防除効果は、降雨後の散布の場合、著しく劣る。

2) E B I剤といえども、病斑が認められるようになってからでの散布では、防除効果が認められない。

3) 薬剤耐性菌の発現を予防するため、一般の園地では、E B I剤の散布を開花直前と落花期の2回だけに止める。

4 参考文献・資料

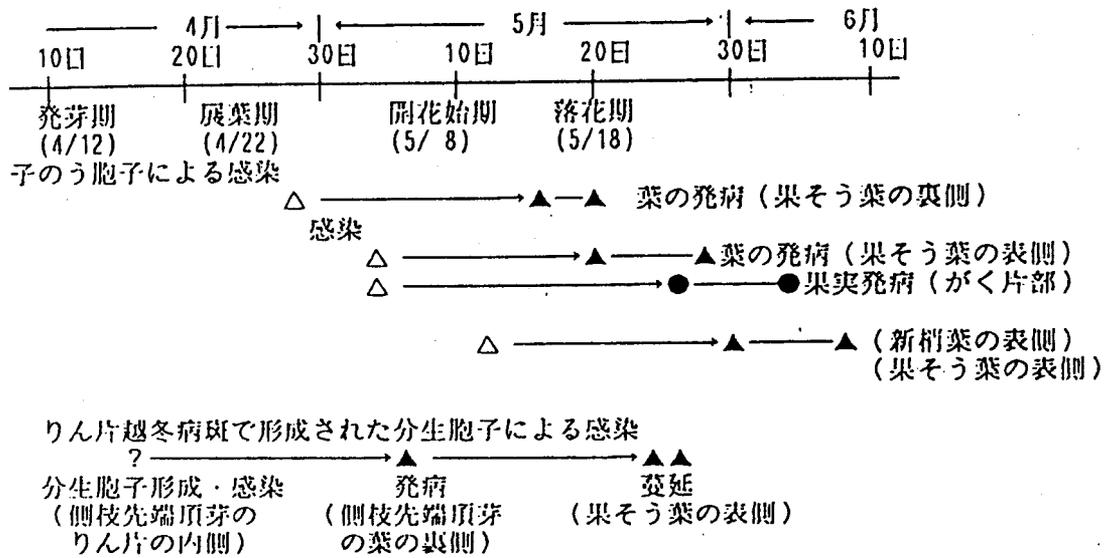
1) 昭和61年度 普及奨励事項および指導上の参考事項 岩手県農政部

2) 昭和63年度 新技術普及指導検討会指導（岩手県園芸試験場） 農村振興課

3) 昭和63年度 環境部試験成績書 岩手県園芸試験場（印刷中）

5 試験成績

昭和63年における黒星病の感染，発病時期と発病部位



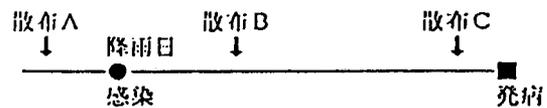
E B I 剤

農薬	希釈倍数
黒星病対象E B I 剤	
トリフミン水和剤	3,000倍
バイコラール水和剤	3,000
ルビゲン水和剤	3,000
他病害対象E B I 剤	
バイレトンAN水和剤	500
サブロール水和剤	500

E B I 剤の散布時期と防除効果

散布薬剤	防除効果		
	散布A	散布B	散布C
E B I 剤	◎	◎	×
子防剤	◎	×	×

◎防除できる ×防除できない



E B I 剤の散布時期と防除効果 (1988年)

供試品種	散布時期	果叢葉の発病葉率	新梢葉の発病葉率		発病果率
			開花直前	落花期	
王林	トリフミン	0.0	0.0	2.8	3.5
	トリフミン	0.0	0.0	2.0	5.5
	オーソサイド	24.0	24.0	19.7	2.0
	無散布	20.3	20.3	47.9	29.5
ふじ	トリフミン	0.2	0.2	0.0	3.4
	オーソサイド	37.9	37.9	0.4	15.0
	無散布	75.7	75.7	32.8	52.6

散布月日：開花直前 5月6日 落花期 5月19日

発病調査月日：王林 果叢葉 5月24日，新梢葉 6月16日，果実 6月16日

ふじ 果叢葉 6月1日，新梢葉 6月16日，果実 6月23日